「せり」と「入札」を擬似体験してみよう
～取引について勉強してみよう～

（総授業時数：11時間）

実施学年、教科など

第５学年　社会　「水産業のさかんな地域」

単元（題材）の目標

❶我が国の水産業の様子に関心をもつことができるようにする。
❷これからの我が国の水産業の在り方について自分の考えをもつことができるようにする。
❸水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働きを調べたり、我が国の水産業について、地図や統計資料、写真資料などを活用して、水産業の現状や抱えている問題点を読み取ったり話し合ったりできるようにする。
❹国民の食生活の確保や自然環境との深いかかわりについて理解ができるようにする。

学 習 の 評 価

❶水産業に従事する人々の工夫や努力、運輸の働き、食生活とのかかわりなどについて関心をもち進んで学習に取り組もうとしている。
❷我が国の水産業と自然環境との関連について考え、我が国の水産業の現状や抱えている問題を解決する方策やこれからの水産業の在り方について、自分の考えをもつことができる。
❸地図、統計資料、写真資料などを活用して、我が国の水産業の様子や工夫や努力、運輸の働き、水産業の現状や抱えている問題点を読み取り、調べて分かったことや考えたことを目的に応じた方法で表現することができる。
❹水産業に従事している人々が自然環境を活かしながら様々な工夫をしたり，新鮮さを保ちながら輸送したりしていることが分かり、食生活の確保に重要な役割を果たしていることを理解することができる。

展 開 の 特 色

❶本単元は、学習指導要領をもとに大きく次の４つの内容から構成している。
「様々な水産物が国民の食生活を支えていること、水産物の中には外国から輸入しているものがあること」、「水産物の分布や土地利用の特色、主な漁港や漁場など」、「水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き」、「市場の働きなど」の４つの内容を指導する際に、水産業の盛んな地域を事例に取り上げて指導に当たる。
❷金融教育の視点を位置づけ、具体的に展開できるように工夫した。
・広告の活用　・運輸の働き　・「せり」と「入札」の違い　・市場の働き　・価格設定　・産地直送など
❸調査活動、話し合い活動などを取り入れ、具体的で体験的な活動が展開できるようにする。
・広告を活用した産地調べ（輸入先調べ）　・これからの水産業の在り方についての話し合い

そ の 他

❶近隣に市場などがある場合には見学活動などを取り入れたり、事前に従事する人々に教師自身がインタビュー活動を行い、ビデオ資料などを作成したりすることで、より理解も深まる。
❷日本近海の地形図、漁獲量や主な漁港・漁場の分布図などの水産業に関する統計資料などを準備する。

指導計画

時数	ねらい	学習内容・学習活動	金融教育の視点	指導上の留意点	その他（資料など）
1	水産業について関心をもち、私たちの食生活が水産業に支えられていることに気づく。	○スーパーの広告をもとに産地調べを行い、日本の様々な地域や外国で魚が獲られていることに気づき、白地図にまとめる。 ・どのような水産物を食べているのかについての話し合い ・広告をもとにした産地調べ	◇旬の魚を中心に客の購買意欲を高めていく広告作りがされていることに気づく。 ◇日本全国だけでなく世界各地から水産物が運ばれていることに気づく。	☆販売されている魚の産地や名前を白地図に記入させる。 ☆広告はカツオとまぐろが中心に宣伝されていることに気づかせる。	・広告 ・生産地ラベル ・白地図
2	まぐろやまぐろ漁に関心をもつ。	○「冷凍まぐろ」が学校から電車で90分で行くことができる三崎漁港で水揚げされたまぐろで作られていることを知り、まぐろの種類を調べたり、どんな方法でまぐろを獲っているのかを予想したりする。 ・まぐろの種類 ・主な漁港 ・三崎漁港と学校の位置関係 ・まぐろの獲り方の予想	◇様々な種類のまぐろが人々に食されていることに気づく。 ◇資料から主要漁港の水揚げ高を読み取ることができるようにする。 ◇日本各地に水産業の盛んな地域があることを知る。	☆広告や缶詰などのまぐろの名前に注目させ、まぐろには様々な種類があることに気づかせる。 ☆ビデオ資料を活用し、まぐろの泳ぐ様子を視聴させ、興味・関心を高める。 ☆三崎漁港は全国有数のまぐろ漁の盛んな地域であることを押さえる。	・三崎漁港で購入した冷凍まぐろの実物 ・まぐろ類一覧表 ・ビデオ ・資料「全国の主要漁港の水揚高」
3	まぐろ漁や水産業の現状を知る。	○まぐろ漁や近海・沖合・遠洋漁業が減り、輸入量が多くなっていることなどの水産業の現状を調べる。 ・漁業の種類（近海・沖合・遠洋漁業）の特徴 ・水産業の問題点（200海里、輸入量の増加など）	◇漁業別生産量の変化や200海里水域、輸入量の増加によって、日本の水産業の現状が変化していることを考えられるようにする。 ◇約300億円かけて沖ノ鳥島が沈まないようしていることを知る。	☆2つのグラフ（「漁業別生産量の変化」、「日本の水産物輸入量の変化」）や図表（「200海里水域と日本の漁業生産量」）を読み取り、水産業の現状に気づかせる。	・グラフ「漁業別の生産量の変化」、「日本の水産物輸入量の変化」 ・図表「200海里水域と日本の漁業生産量」 ・写真「日本の南のはし・沖ノ鳥島（東京都）」
4	水産業について調べる学習問題を考え、学習計画を立てることができる。	○これまでの学習を通して、水産業について調べる学習問題を作る。 ◆学習問題 水産業に従事している人々は、どのようにして国民の食生活を支えているのだろうか。	◇水産物は国民の食生活を支えていることに目を向け、水産業が重要な役割を担っていることについても考えられるようにする。	☆これまでの学習経験を活かして、疑問点や調べたい点を整理しながら学習問題としてまとめていくようにする。	・短冊カード
5	水産業に従事する人々が自然環境を活かしながら工夫や努力をしていることを理解する。	○日本近海は良い漁場と言われているのか、またその理由について資料から考えたり、地図帳などを活用して確認したりする。 ・日本の主な漁場 ・日本近海の地形や大陸棚の広がりについて	◇主な漁場と主要漁港の位置関係を関連づけて考えられるようにする。	☆地形や大陸棚、海流などの自然環境との関連を押さえる。	・地図帳 ・地形図
6	まぐろの特徴やまぐろ漁の仕方が分かる。	○まぐろは回遊魚であることや、三崎漁港に水揚げされるまぐろはどのような漁法で獲られているのかなどについて調べる。 ・延縄漁など様々な漁法の特徴 ・まぐろが回遊する範囲や季節	◇まぐろが回遊する季節によって水揚げ漁港が変わることに気づく。	☆実物資料から興味関心をもたせる。 ☆まぐろの特徴を押さえるために「まぐろのプロフィール」を作り配付する。	・針、延縄、テグス ・資料「まぐろ回遊図」
7	養殖漁業や栽培漁業のどちらが有利な方法なのかを考える。	○養殖漁業や栽培漁業の相違点や従事する人々の工夫や努力について調べ、調べたことをもとに自分の考えをもつ。 ・養殖漁業の工夫や努力 ・栽培漁業の工夫や努力 ・養殖漁業と栽培漁業の相違点	◇次の課題に対して、自分の考えをもてるようにする。 ◆課題 魚の生産額を高めていくにはどちらの方が有効な方法か	☆良い点や課題点、それぞれの工夫や努力に目を向けて資料の読み取りができるよう調べる視点を明らかにする。 ☆調べたことをもとに、自分の考えをまとめるようにする。	

入門ガイド
小学校における入門ガイド
中学校（社会）における入門ガイド
中学校（技術・家庭）における入門ガイド
実践事例
幼稚園における実践事例
小学校における実践事例 5学年
中学校における実践事例
高等学校における実践事例
資料
金融教育に関する年間指導計画の例
資料

時数	ねらい	学習内容・学習活動	金融教育の視点	指導上の留意点	その他（資料など）
8	水産業に起こっている変化や問題点、今後の在り方を考える。	○水産業が直面している変化や問題点を資料から読み取り、今後の水産業の在り方や問題の改善策について自分なりの考えをもち、話し合う。 ・漁業者数の減少 ・漁業生産量の減少 ・漁師の現状 ・今後の水産業の在り方や問題の改善策	◇漁業者数の減少により今後の日本の水産業の在り方が変わっていくことを考えられるようにする。	☆グラフから漁業者数が減少していることに気づかせ、理由を予想させる。 ☆予想を確かめさせるために、資料を活用し漁師の現状をとらえさせる。	・グラフ「水産業で働く人の数の変化」 ・資料「小田さんの話」
9	運輸に従事している人と協力して、遠距離の消費地に運んでいることや水産物の鮮度を保つための様々な工夫、市場の役割を理解する。	○日本各地から新鮮な水産物を運ぶための工夫を考えたり、運輸の働きを調べたり、市場の役割を考えたりする。 ・新鮮なまま運ぶ工夫や輸送方法 ・輸送経路 ・鮮度を保つ工夫 ・市場の役割	◇高速道路の発達や鮮度を保つ工夫により日本各地で様々な水産物が食べられるようになったことをとらえる。 ◇市場は、品物を調整したり、品物の安全を管理したり、取引を素早くする役割があることなどを知る。	☆冷蔵技術が向上していることや鮮度を保つ工夫を冷蔵庫のカタログの記述や宅配便のHPからとらえさせる。	・冷蔵庫のカタログ、宅配便業者HP ・資料「中央卸売市場」見学者用パンフレット ・地図帳 ・日本地図
10（本時）	2つの市場を比較しながら、まぐろを取引する仕組みを理解し、その特徴を考える。	○2つの市場でのまぐろを取引する様子から価格の決め方には様々な方法があることを知り、「せり」と「入札」に関する擬似体験を通してまぐろの取引の仕方や価格の決め方についての特徴を考える。 ・築地市場の「せり」 ・三崎市場の「入札」 ・「せり」と「入札」の良さ（問題点）	◇「せり」や「入札」の擬似体験を通して、売り手の立場や買い手の立場からそれぞれの取引の仕方の良さ(問題点）を考える。 ◇年々「せり売り」と「入札」の割合が減っていることや「せり売り」している水産物は少ないことを知る。	☆築地での「せり」の様子を収めたビデオなどを見せ、予想させる。 ☆三崎の「入札」の様子を収めたビデオなどを見せ、築地との違いに気づかせる。 ☆それぞれの取引の良さに注目させる。	・「築地や三崎の様子」のビデオや写真 ・「ようこそ三崎の魚市場へ」 資料 No.1 （→P.82） ・「図解これが三崎の魚市場だ！」 資料 No.2 （→P.82） ・資料「中央卸売市場におけるせり売り・入札の割合」
11	・水産物の取引は全体的に「せり」と「入札」の割合が少ない理由を考え、新しい取引の仕方や特徴を理解する。 ・水産業と私たちの食生活とのつながりについてまとめる。	○資料の読み取りから、「産地直送」という新しい取引の仕方が生まれていることやその特徴を知る。 ・産地直送の仕組みや特徴 ○学習を振り返り、水産業と私たちの食生活はどのようなつながりがあるかを考え、作文にまとめる。 ・水産業と私たちの食生活とのつながり	◇市場を通らない「市場外流通」である相対取引の一つである「産地直送」に目を向ける。大型小売店では自社の生鮮センターから各店舗に配送するため、「せり」や「入札」などによって取引していたのでは、開店までに商品を陳列することができないことなどに気づくことができるようにする。	☆様々な取引の仕方があることを知り、その特徴や良さについて考えながら、なぜ「産地直送」という取引の形が多くなってきているのかという点まで考えられるようにする。 ☆分かったことや感想などから、単元のねらいを達成できるまとめとなるようにする。	・資料「卸売市場経由率（推計）の推移」

本時の展開

[本時の目標]

ア　2つの市場を比較しながら、まぐろを取引する仕組みには「せり」と「入札」があることを理解する。
イ　「せり」と「入札」の擬似体験を通して、それぞれの良さについて考える。
ウ　まぐろの取引方法として「せり」と「入札」のどちらが適しているか売り手や買い手の視点で自分なりに考える。

	学習内容	学習活動	金融教育の視点	指導上の留意点	その他（資料など）
導入（5分）	・築地市場の「せり」	○「築地市場」での取引の仕方を振り返る。	◇築地市場での「せり」の様子を収めたビデオを視聴することで水産物の取引の方法を知る。	☆4年生で見学した「築地市場」での学習を想起させる。	・ビデオや写真
展開（30分）	1. 三崎市場の存在の確認 三崎市場と築地市場の違い 三崎市場の「入札」	○三崎漁港にも魚市場（水産物地方卸売市場）があることに気づく。 ○三崎市場での取引の仕方を予想し、「三崎市場での取引の様子」を収めたビデオ資料から「入札」を知る。 ○築地市場との違いについて考える。 ○資料で三崎市場の取引の仕方を確認する。	◇市場は様々な場所にあることを知る。 ◇「地方卸売市場」と「中央卸売市場」が存在することを知る。 ◇三崎市場での「入札」の様子を収めたビデオを視聴することで水産物の取引の方法には様々な方法があることを知る。	☆資料1を配付し、読み取りを通して三崎漁港には市場があることに気づかせ、三崎のまぐろは築地市場に運ばれていないことを知る。 ☆ビデオの内容は、三崎魚市場でのまぐろの取引の様子を収めたものであることを伝える。 ☆2つの市場ではまぐろの取引方法が違っていることに気づかせる。 ☆資料2を配付し、「入札」で取引されていることを押さえる。	・「ようこそ三崎の魚市場へ」 資料 No.1 (→P.82) ・「築地や三崎の様子」のビデオや写真 ・「図解これが三崎の魚市場だ！」 資料 No.2 (→P.82)
	2.「せり」と「入札」の良さ（問題点）	○「せり」と「入札」の擬似体験をもとに、それぞれの良さを考える。	◇擬似体験を通して、「せり」や「入札」の良さに気づく。	☆まぐろの模型などを活用したり、入札用の札紙や擬似通貨などを配付したりして、擬似体験を盛り上げるよう工夫する。 ☆それぞれの良さを引き出させるため、この時点ではあえて問題点には触れない。	
	3. まぐろを取引する上でより適切な方法は「せり」と「入札」のどちらか？	○擬似体験をもとにまぐろの取引方法として「せり」と「入札」のどちらが良いか自分なりに考え発表する。	◇売り手や買い手それぞれの視点でまぐろの取引の良さを考える。	☆それぞれの取引の違いをとらえながら、自分なりの言葉で考え発表できるようにする。 ☆児童の発表を売り手・買い手に分類しながら板書に整理する。	
まとめ・広げる（10分）	・本時のまとめ ・築地市場での「せり」や「入札」の割合の減少	○本時のまとめを行う。 ○まとめ後、築地市場での「せり」や「入札」の割合が年々減っている事実から次時の学習課題を引き出す。	◇ 築地市場では、「せり」だけでなく、「入札」も行っていることを知る。 ◇年々「せり」や「入札」以外の新しい取引方法の割合が増えていることを知る。	☆資料を配付し築地市場で「入札」も行われていることや年々「せり」や「入札」での取引が減少していることに気づかせ、次時への興味関心を高めるようにする。	・資料「築地市場の取引割合表」

実践の記録

本実践では、４年生の社会科見学で区内にある「築地市場」の見学を行っているという既習経験をもとに「市場」を取り上げた。「せり」と「入札」の良さを意見交換する場面では、売り手と買い手のそれぞれの立場で２つの取引方法の良さについて考えることができた。児童なりの視点でより適した購入方法などを考えることは、金融教育的な視点から考えても有意義な学習活動となったのではないかと考える。

本時の展開２と３の部分の授業記録を右記に紹介する。

授業記録

2：13	教師　このまぐろをみんなに入札してもらいます。	2：24	児童　１回で終わる。
・	〔教師　入札カードを配付する〕	・	教師　入札の良いところは？
・	教師　ではこのまぐろの値段を決めて。よく見て入札して。	・	児童　買う人が自由に選べる。
・	〔児童　まぐろの模型を見て値段をつける〕	・	児童　人には見られない。
2：18	教師　では後ろからカードを集めて。	・	児童　自分の納得する値段で買える。
・	〔教師　入札カードを確認する〕	・	教師　みんなはどっちが良いかな？
2：20	教師　７人の人が同じ値段になりました。	・	児童　入札！
・	〔教師　高額入札者を紹介する〕	・	児童　値段を自由に言えるから。
・	教師　このようにして一番高い人に売る方法が入札です。	・	児童　セリだとどんどん高くなって買えなくなっちゃう。
2：21	教師　ではセリをやってみましょう。	2：28	教師　セリが良い人はいますか？
・	児童　100、200、1,000…	・	児童　速いし、売る人から考えると高い値段がつく。
・	教師　セリのいいところってどんなところ？	・	100 円で売りたくても 99 円になったりするし、
・	児童　すぐに結果が出る。	・	セリだと負けず嫌いの人もいて値段が上がるから。
・	教師　取引時間が短いね。		
・	児童　高く売れる可能性がある。		

2 小学校における実践事例

次に、本実践の導入時の授業展開や模擬体験での児童の様子について紹介する。

（1）導入時の授業展開

築地市場と三崎市場のまぐろの取引の様子を比較させるために、両市場での取引の様子を収めたビデオ映像を視聴させた。「築地市場での『せり』の様子」の視聴後、三崎市場での取引の様子を視聴した児童は、「せり」独特のにぎわいとは、様子が違うことに気づいた。

配付した資料を読み取ることで、三崎市場では「入札」によってまぐろが取引されていることを調べた。その後、模擬体験を行いながら、それぞれの取引方法の良さ・問題点などについて考える学習へとつなげていった。

（2）模擬体験での児童の様子

それぞれの取引方法について意見交換する場面では、「入札の方が自分のほしい値段で品物を購入できるので良いと思う」など多くの児童が消費者の立場で課題に取り組んでいたようである。それに対して、少しでも利益を高めたい販売者の心情に迫って発言する児童もいた。児童が消費者の立場と販売者の立場になって、「せり」と「入札」の良さや問題点などを考えることができた。児童は、自分なりの視点で消費者と販売者、状況や目的に応じて、適した購入・販売方法があることを体験的な活動を通して実感することができた。こうした学習経験は金融教育的な視点で考えても有意義な学習活動であったと考える。

教材・資料など

資料１「ようこそ三崎の魚市場へ」と資料２「図解これが三崎の魚市場だ！」については、以下のHPからもPDFファイルを入手することができる。

三浦市の総合案内＞事業者向けのHP「三浦市三崎水産物地方卸売市場」
http://www.city.miura.kanagawa.jp/ichiba/ichiba_index.html

資料 No.1
「ようこそ三崎の魚市場へ」

資料 No.2
「図解これが三崎の魚市場だ！」